

2023/11/27 (月)

朝の礼拝

聖書 イザヤ書 9章 1節 (旧約聖書1073頁)

闇の中を歩む民は、大いなる光を見、
死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。

戦禍の祈り

「闇の中を歩む民」とあります。日が沈んだ夜の事です。彼らには寝床がなかったのでしょうか。なぜ夜に歩いていたのでしょうか。何に追われ、逃げているのでしょうか。彼らには枕するところがありませんでした。それは大国の覇権争いの渦中であって、何も頼るものがない難民の人たちのことです。

「死の陰の地に住む者」とは水のない、食べるものもない、傷を負った、生死をさまよっていても、何もできない、安全な地へと移すこともできない、ただ死を待って天を見上げている人たちのことです。これもまた大国の覇権争いの渦中であって、何も頼るものがない難民の人たちのことです。

これは今から約二千四百年前、中東、パレスチナで実際に起きていたバビロニア、エジプト、そしてペルシアという大国の覇権争いの渦中であって、翻弄されていたイスラエルという神様に選ばれた小さな民の真実です。もちろんパレスチナ、先住民カナンと呼ばれた人たちも同じ戦禍にありました。

イザヤは「大いなる光を見」と言いました。大いなる光とは戦いが終わる、見るとは信じるということです。必ず終戦の時が来ると信じますという祈りなのです。そして「光が輝いた」とは息絶えようとする家族、仲間の傍らにあって、どうか永遠に彼らと共にいてくださいという祈りなのです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、イザヤは戦禍にあり、死に臨む人の隣で、あなたが永遠に共にいてくださいと祈りました。どうか不安と恐れの中でも、生死をさまよう人びと、特に幼い命を見守る人びとと共にいて励ましてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン